

放課後等デイサービス事業所における自己評価

令和 6年 1月 26日

事業所名 アスラボさばえ

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			一人一人のスペースを確保できるようパーティションや個別デスクを使用し適切な空間を確保している。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員配置基準の順守はもちろん、個別での対応が必要な場合は事前にご本人と相談をし、対応コマ時間を割り振る等して最適な対応が出来るようにしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		事業所が建物の2階にあるため構造上バリアフリーは不可能である。しかし、階段には手すりを設置し、教室内はワンフロアで段差がないようになっている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			定例会議や日々の朝礼・終礼時に問題点や課題を確認し、改善点を検討して実践を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			半年に一回、評価表を作成している。 頂いたご意見を職員間で共有し、すぐに対策を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			結果をHPに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的に会議を開き、事業所内研修を行っている。 また、立場や役割に応じて外部研修を受講する機会を設けている。
適切 な 支 援 の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			計画見直しの時期に合わせて認知特性テストを実施しその結果を保護者様と利用者様にお伝えをしている。それを基に面談でニーズの聞き取りとご本人が取り組み易い方法を確認し計画に反映をさせている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			認知特性を把握する脳バランサーやライフスキルのツールの利用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			毎週土曜日の集団療育内容は、担当を決めて作成し職員間で検討をおこなっている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			工作・理科実験・集団遊び・イベント等、週替わりにプログラムを作成している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			常に利用者様との会話を大切に、スケジュールを立てる際、取り組む内容を細かく聞き取りを行っている。平日、休日、長期休業中等利用者様ご自身で活動内容の計画を立てることが出来るよう働きかけ、何をどうすればよいか考えることが出来るように支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用者様の状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ支援を行っている。また、発達段階に応じて個別から集団へ移行出来るよう計画的に進めている。

提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼時に支援内容や担当の確認を行っている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼時に、利用者様の様子や支援内容の振り返りを行っている。記録をとっておき、次回のご利用の際、職員間で対応を共有したり、学習の進め方を共有できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日、支援ツールのHUGにて記録を記入している。職員間共有のため利用者ごとの記録をとっている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		新規ご利用の方は2, 3ヶ月後に計画を見直すためモニタリングを行い、それ後は半年に一度事業所でモニタリングを行っている。また、相談支援員様と一緒にモニタリング結果について情報共有を行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		ご利用者様のニーズや必要性に応じて複数の活動内容を組み合わせて支援を行っております。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		発達の特徴を背景に学習に課題を持つ利用者様の際は、学習計画を立てる担当者（学習コーディネータ）が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		保護者様と共有し、事業所での様子を伝えている
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		相談員さんからの情報や保護者様からの聞き取りで就学前の様子を理解している。
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	対象の利用者様がない
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		WEBセミナー等に参加し研修を受けている。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	現在連携は行っておりません。
	26	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		丹南地区自立支援協議会の育つ部会に参加している。また、鯖江市自立支援協議会に参加している。
27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や支援ツールのHUGを通して情報共有を行っている。また、必要に応じて面談を行い、支援内容や課題の共通理解を行っている。	

保護者への説明責任等	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		声かけの仕方などアドバイスを行っている。
	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		契約時に説明を行っている他、入口付近に掲示をし常時閲覧できるようにしている。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		定期的な面談時だけでなく、新たな課題が起きた時には適時相談の受け入れを行っている。
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者様が参加する進路説明会や防犯教室を開催し、保護者様同士の交流が持てるように支援を行っている。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		保護者様に対しては契約時に苦情対応窓口についての説明を行っている。また、ご意見をいただいた際には職員間で共有し、対応策を検討し迅速に対応している。
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		HUGの中で予定をお伝えしている。
	34	個人情報に十分注意している		○		契約時にお預かりした個人情報については鍵付き書庫に保管をしている。保護者様からご指摘いただいた入口付近に個人名の封筒等を置いていることに関して保護者様から見えない位置に移動させ対応を行った。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		それぞれの方が理解しやすいように情報を伝えている。
非常時等の対応	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	現在は行っていない。
	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		各種マニュアルの作成を行い、職員に対しては研修を行っている。保護者様に対しては、入口付近に掲示し常時閲覧できるようにしている。
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		避難訓練を半年に一回行っている。災害のシチュエーション毎に避難訓練を変えて行っている。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		虐待防止・権利擁護の研修を受講し、その内容を職員に共有している。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		虐待防止・権利擁護の研修の内容をもとに事業所内で基準を設けている。また、支援計画にも記載を行っている。
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事やおやつは提供していない。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハットが起こった場合には終礼時に問題点や課題を共有し対応を確認している。